

友の会だより

孀恋郷土資料館

2012年12月14日 No 15

友の会村外研修

郷土資料館友の会（土屋澄孝会長）では11月21日、村外研修会を実施し、企画展「浅間火山展」を開催中の「浅間縄文ミュージアム」（長野県御代田町）をはじめ、浅間山の噴火が鎮まる



ことを祈願代田町）、「中学しました。

午前10時は、まず職員

前の縄文の世界にいざなわれました。焼縄文石器や縄文土器などを見学、その充続いて、企画展「浅間火山展」を見学。数万年前に誕生したとされる浅間山の歴史や天仁元年の大噴火、天明3年の大噴火についてあらためて勉強することができ、有意義なひとときとなりました。特に実物を展示中の「浅間山夜分大焼之図」（美斎津洋夫氏蔵）や、孀恋郷土資料館から提供された鎌原観音堂や階段の発掘現場などの写真には、みな感動の面持ちでした。

企画展「浅間火山展」開催中の
浅間縄文ミュージアムなど見学

田町）をはじめ、浅間山の噴火が鎮まるして建立されたとされる真楽寺（長野県山道69次資料館）（軽井沢町追分）を見

過ぎに縄文ミュージアムに到着した一行の案内で常設展示されている約5000年町土器を製作中の縄文の母娘像、様々な実した内容に感心することしきりでした。



真楽寺 数々の貴重な文化財が



昼食のあと一行は、境内に御代田町指定の貴重な文化財が数々ある真楽寺を見学しました。同寺は西暦587年に用明天皇の勅願で、浅間山の噴火が鎮まるよう祈願し建立されたとされる古刹です。一行は、樹齢約一千年の神代杉や見事な三重塔に感嘆の声を上げながら悠久の信仰の歴史に思いを馳せていました。

東西の人や文化が行き交った 中山道69次

このあと、一行は軽井沢町追分の中山道沿いにある「中山道 69 次資料館」を訪れました。ここでは、長年にわたって研究を続け、資料収集にあたってきた資料館創建者の岸本豊館長の解説を受けることができ内容の濃い見学会となりました。



中山道と言えば、五街道のひとつで東海道とともに江戸時代を代表する街道。ともに江戸日本橋から京都三条大橋までのルート。東海道が江戸日本橋から西方沿海の諸国を



経て京都に上る 53 次の街道であるのに対して、中山道は、江戸日本橋から板橋へ出て、内陸の上野（こうずけ）、信濃、美濃を経て草津（滋賀県）で東海道に合流し、京都に至る 69 次です。館内は、この 69 次を平等配分して展示しており、展示品も展示内容も見入る人の興味をそそるものばかり。特に中山道の浮世絵に造詣の深い岸本館長の説明には、みな真剣に聞き入っていました。（by ガンビ〜）

..... —————

「友の会」教養講座

「草軽鉄道」の遺構を訪ねてみよう

=宮川富士夫さん=

「『草軽鉄道』の遺構を訪ねてみよう」と題する「友の会教養講座」が 11 月 10 日午後 1 時半から、宮川富士夫さんを講師に招いて孺恋郷土資料館で開かれます。宮川さんは初めに、鉄道の文化について語り、明治 5 年に新橋—横浜間に



はじめて開通した日本の鉄道の歴史に触れながら、鉄道はその国の文化を示すバロメーターであると指摘。かつて鉄道が輝いていた時代、この地にも「草軽電気鉄道」（創業当時は「草軽軽便鉄道」）が走っていたと訴え、吾妻、石津、白根、万座などの鉾山から産出された硫黄などの貨物輸送、軽井沢—草津温泉を結ぶ観光客輸送などに貢献、地域産業の発展、観光の振興に大きな役割を果たしてきたと述べました。そのうえで、

先人たちの築いてきた鉄道文化に思いを寄せ、廃線跡に残る遺構などを一度訪ねてみるのもいいのではないかと推称していました。（by ガンビ〜）